

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4270103403
法人名	有限会社 ぽーれぽーれ
事業所名	民家型宅老所 ぽーれぽーれ松が枝
所在地 (電話番号)	長崎県長崎市松が枝町3番23号 (電 話) 095-823-1886

評価機関名	SEO (株)福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-2-10 南近代ビル5F		
訪問調査日	平成20年4月23日	評価確定日	平成20年10月16日

【情報提供票より】(平成 19年 10月 1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 15年 4月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	6 人
職員数	11 人	常勤 1人, 非常勤 10人, 常勤換算 4.8人	

(2)建物概要

建物形態	単独	改築
建物構造	木造	
	2 階建ての	1 階 ~ 2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000 円	その他の経費(月額)	13,200 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,100 円		

(4)利用者の概要

利用者人数	6 名	男性	1 名	女性	5 名
要介護1	2 名	要介護2	1 名		
要介護3	2 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.8 歳	最低 74 歳	最高 99 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	阿部内科循環器科、森本歯科医院
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

両親が揃って生活できる場所と両親の傍で暮らしたいという思い、地域のおじいちゃん・おばあちゃんの役にたつことは・・・、住み慣れた家・安心して笑顔で帰ってくる場所を考え、市内の軌道電車路に添ってスーパーマーケットや商店・住宅が建ち並ぶ一角に築50年以上経つ両親の実家を改築して民家型のホームを開設した。法人代表は人間として本来持っている父性、やさしい父親としての姿を見ることができたという意味では、両親が認知症になって良かったという思いを持っている。身体機能が低下したご利用者に必要な設備が整えられている一方、雪見障子・檜風呂等、昔からの家庭の雰囲気がそのまま残され、ご近所の方が散歩の折に寄ってご利用者と一緒に話したり、お茶を頂いたり、一昔前の近所付き合いや今迄の生活が違和感なく続けられている。新しい職員を「この人にはこういう良いところがあるのでここにきて貰った」と紹介し、ご利用者を好きになって第二の家族として一緒に暮らし続け、楽しく働き続けられるようにと常に伝え、毎日の生活の中で笑い声が聞こえている。終末期で臥床している時間が多くなっていく方に、今の時間を精一杯生きて頂きたいと考えて、天井に壁紙を貼って、ぽっかりと浮かんだ雲と空のある空間を作る等、ご利用者お一人ひとりの生活を大切にしたい支援が絶え間なく続けられている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) ①ご利用者の個別写真を掲載したホーム便りへの思いもあり、一旦発行し再度中断しているが、遠方のご家族の方にもご利用者の様子をより詳しくお伝え出来るように、隔月発行に向けての取り組みを続けている②緊急時対応や感染症予防についてマニュアルを作成し机上研修を行い、一次救命救急講習の開催予定が決まっている③医師の助言を頂いて栄養士の職員が摂取カロリーを定期的に計算し、年齢・性別・体格で盛り付け量を変え個別の食の支援をしている。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 評価について外部の目で運営状況、ケアの現状・取り組みについて評価していく事と伝え、職員が自主的に話し合いながら自己評価を行った。責任者は取り組みの中で理念に沿ったケアの取り組みは職員に浸透して来ているが、理念の理解に差がある事に気付き、サービスの在り方・職員個々に対する教育等を具体的に考える機会になり、今後の取り組みの方向性がはっきりしてきた。前回評価結果に基づき改善に取り組んでいる。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) H.18.9から運営推進会議を、地域住民・消防団・青年会・老人会の方に参加して頂き開催し、ご意見に基づいた取り組み状況の報告や、会議で取り上げて欲しい事をお聞きしている。認知症予防の勉強会をして欲しいとご要望や、グループホームについて説明されたほうが良いのではと助言を頂き、取り組んでいく予定である。市担当者に権利擁護についてや共用型サービスについて相談したり助言を頂いている。地域密着型について勉強したいと市議会議員の訪問を受け説明を行い、地域包括支援センター職員を交えて意見交換会も行った。
	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) ご利用者の暮らしぶりや健康状態等を、日常的にメールや電話で近況をお伝えしたりご家族の来訪時にお話し、遠方のご家族には責任者が手紙を書いたり、行事の時の写真をお送りしている。ご利用者の担当職員の交代は電話でお知らせし、ご家族来訪時に紹介している。ご利用者の生活状況等を報告した時に「何かないですか」とお尋ねしたり、外部の相談窓口の“認知症の人と家族の会”の長崎支部をご案内し、全体会議にご利用者も出席して頂き、ご意見等頂いた時には専用のノートに記録を残し、職員間で情報を共有している。

2. 評価結果(詳細)

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「家から送って欲しい」という父親の思いと、両親の傍に居たいという法人代表の思いから、両親が揃って生活できる場所としてホームを開設した。ご利用者が住み慣れた自分の家で暮らすように自由に生活して頂き、笑顔で帰ってくる場所、安心して頂ける所を目指して、お世話をさせて頂きたいと考えて理念を作った。在宅の方の生活、その人らしく暮らし続けることを支えることを反映させ、H.19.5「地域の中で自分らしく暮らす」を地域密着型サービスとしての理念として付け加えた。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	代表は会議等で折にふれて、第2の家族を作って一緒に生活をするという気持ち、家だから最期まで見るのは当たり前と、ケアの場面を通して理念を念頭に置き伝えている。職員は申し送り前に理念を復唱し、鏡を数か所に設置し心からの笑顔、心のゆとりがあるかをチェックしたり、職員自身も理念に通じるところを理解している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ご利用者と一緒に居留地祭りに行ったり、くんちの時は地域の方に寄って頂き甘酒のふるまいをしたり、こよりで釣り具を作りヨーヨー釣りやラムネ売り、ディロンビーズのコースターを販売して材料代の一部に充てている。ご利用者が保育園の遠足に参加したり、保育園と老人会の交流会、町内対抗の運動会で給食い競争に職員と一緒に参加している。ご利用者は近所の方のお顔が見えたら一緒に“お茶”をしたり、通学路のバトロールや、ホーム周辺・公園を代表・老人会の方と一緒に清掃している。	○	町内の方がボランティアをされていて“さるく博”の時にホームを紹介して頂いており、地域の方に自由に来て頂き食事を定期的に開く等考えている。地域の方に来て頂く機会が増える事でご利用者との交流も深まり、自然な形で住み慣れた家で暮らし続ける事につながっていく。地域との付き合いが更に広がっていく事に期待していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	代表は評価について外部の目で運営状況、ケアの現状・取り組みについて評価し情報開示していく事と伝え、職員が自主的に話し合いながら自己評価を行い、代表の評価とすり合わせて責任者が一つにまとめた。責任者は取り組みの中で、理念に沿ったケアの取り組みは職員に浸透して来ているが、理念の理解に差がある事に気付き、サービスの在り方・職員個々に対する教育等を具体的に考える機会になり、今後の取り組みの方向性ははっきりしてきた。前回評価結果に基づき改善に取り組んでいる。	○	各職員による視点の違いにより、サービス提供場面に於いて介護者の視点になっている部分があり、自己評価を基にご利用者の視点で考えケアの根拠について等、振り返りにつなげていきたいと考えている。代表・責任者・職員と話し合いの上で、ご利用者・ご家族のご意見もお聞きしながら、評価結果を活用していかれる事に期待していきたい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	H.18.9から運営推進会議を開催し、近隣協力隊メンバーの参加をというご提案があり、地域住民・消防団・青年会・老人会の方にも参加して頂き、一年に一度程度開催しご意見に基づいた取り組み状況の報告や、会議で取り上げて欲しい事をお聞きしている。地域で「認知症予防の勉強会をして欲しい」とご要望を頂き、今年度の年次計画に勉強会等を組み込み具体的にすることを伝えていた。市職員からは地域の方々にはグループホームについて説明されたほうが良いのではと助言を頂いている。	○	H.20年度から運営推進会議を2ヶ月に1回の開催していく事や、認知症についての勉強会等も通してグループホームを理解して頂く事につなげ、近所の方と付き合いの輪を広げていきたいと考えている。ご家族から率直なご意見を頂く為にも議事録をお配りする事も検討しており、議事録に参加者名や意見を言って頂いた方の記名等も検討され、ご意見がサービス向上に活かされるよう、今後の更なる取り組みに期待していきたい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	代表が市役所・高齢者すこやか支援課へ、介護保険の申請等の手続きに伺い、ホームの活動内容等の情報提供を行ったり、権利擁護についてや共用型サービスについて相談したり助言を頂いている。地域密着型について勉強したいと市議会議員の訪問を受け説明を行い、地域包括支援センター職員を交えて意見交換会も行った。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ご利用者の暮らしぶりや健康状態等を、ご家族の来訪時にお話しする事もあるが、定期受診結果や何かある時等、日常的にメールや電話で近況をお伝えし、遠方のご家族には責任者が手紙を書いたり、行事の時の写真をお送りしている。請求者をお送りする時にご利用者の小遣い帳の写しを同封し、来訪時にサインを頂き金銭管理の報告を行っている。ご利用者の担当職員の交代は電話でお知らせし、ご家族来訪時に紹介している。	○	ホーム便りの隔月発行を予定しており推進会議の中で、ホーム便りに取り上げて欲しいことをお聞きしながら、生活状況等お伝えする内容を充実させ、定期的な送付を考えている。ご利用者の様子が遠方のご家族の方にも、より詳しくお伝え出来るようになり、安心感・信頼感につながっていくと考えられ、今後の更なる取り組みに期待していきたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者の生活状況等を報告した時に「何かないですか」と、責任者や職員がご家族にお尋ねしたり、外部の相談窓口の“認知症の人と家族の会”の長崎支部をご案内している。全体会議にご利用者も出席して頂き、その際「何かないですか」とお聞きし、ご意見等頂いた時には専用のノートに記録を残し、職員間で情報を共有している。	○	率直なご意見を気軽に自由に言って頂けるよう、家族会を開催したいと代表は考えている。市内在住のご家族が少なく、全ご利用者のご家族が揃って参加されるのは難しい事も予測されるが、遠方のご家族に予定を合わせる事も検討されることを望みたい。家族会の開催により職員とご家族の交流が図れるだけでなく、ご家族同士の交流も深められると考えられ、今後の更なる取り組みに期待していきたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職を最小限にする為に調理・夜勤の専門職員や基準以上の人員配置、職員毎の背景にある働く環境に応じた勤務を優先し休みの希望にも極力応じている。代表は職員の表情から悩み事・気になっている事を察知し、帰宅の際に職員と同方向への所用を作って話を聞き個人面談の場としている。ストレス解消ができるよう食事会等の職員親睦の場を設けている。新規職員へ代表が理念について話し、指導職員が情報提供しながら一緒にケアし、責任者が定期的に指導状況を確認しながら指導している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の年齢の幅が広く其々が持っている良さ、歳を重ねる事で持つ力、勤務形態に関わらず能力によって指導的役割を担って貰っている。責任者は介護技術・異常の早期発見についてや、ご利用者の状態に合わせて医療・看護を主体とした内部研修を定期的に行っている。外部研修は参加希望者を募ったり職員の適性に応じて声をかけ、伝達研修や資料の掲示・回覧をしている。職員の課題について代表・責任者と三者面談を行い年間の目標を立てている。	○	三者面談を基に課題・目標が明確に位置づけられている職員もいるが、各職員の立場・経験・習熟度に応じた、職員毎の育成計画の作成を考えられており、今後の更なる取り組みに期待していきたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表がグループホーム連絡協議会の研修委員をされ研修等の計画・運営に参画しており、合同研修会や事例検討等に職員も参加している。電話・メール等で日常的な情報交換を行ったり、相互訪問や他ホームでの一泊研修を相互に行い、申し送りやケアについての振り返りや自信につながり、課題の発見にもつながりサービスの質の向上に向けて取り組んでいる。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に責任者のご自宅や施設に伺って顔馴染みの関係を作っている。家族の住む他県のホームに入居後、体調不良となり「帰りたい」との思いが強いとご家族から相談され責任者が横浜に伺い入居に至った方がおられ、ご本人もホッとされた様子で今は体調も回復されている。必要に応じて短時間の体験通所や病院から直接入居される時に医師の協力を得ながら、ご本人に納得して入居して頂いている。行きつけのお店や散歩コースにお連れして、馴染みながらサービス利用ができるように取り組んでいる。	○	入居前の事前訪問に職員も関わり居住環境を実際に目にする事で、生活習慣や趣味・好み等の情報収集、ご利用者の把握がしやすくなり、職員にとっても勉強の機会になると代表は考えている。生活の場に直接お伺いし生きて来られた時間や地域性等を感じ取り、その人らしさや大事にしている事も垣間見る事ができ、ご利用者の行動・表情の背景を感じ取る事にもつながる。ご本人の安心と納得を大切にしたい利用支援が、今後更に充実されるような取り組みに期待していきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ご利用者から旧漢字や旧かな文字を教えて頂いたり、ご利用者に年齢に近い職員が「どうしましょうか」と、寄り添いながら話を引き出し戦争体験や当時の生活ぶりを話されたり、その中に他職員も加わって互いに笑顔で声をかけ合い、ご利用者から元気を頂いている。お一人ひとりの趣味や得意な事、個別の能力を把握して、ご利用者が主役のレクリエーションを試みたり、サッカー・野球を見たり、新聞や将棋等で一緒に過ごし学び支えあう関係が出来ている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	必要な介助と考えて支援した事で、ご利用者のADLが低下したのではないかと職員の思いがあり、トイレの往復に1時間かかるご利用者が、バランスを取りながら足を出そうとされるので職員間で話し合い、ご本人の“歩きたい”のではという気持ちを汲み取り、関節可動域訓練・立位バランス・体重移動等の取り組みを続けている。ご利用者の生活歴・趣味等を出来る限り把握し、行動・表情の背景を推察したり、行動を共にして思いに近づけるよう努めている。	○	高齢者の疑似体験を通して、ご利用者の行動の意味に気づき、潜んでいる思いや表現できない思いを汲み取り、ケアに活かしていきたいと考えている。ご利用者の行動・実践したケアを検証していく事で、心の中の深い思いを把握していく事にもつながっていくと考えられ、今後の更なる取り組みに期待していきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご利用者の思い等を踏まえ『その人らしく暮らし続ける』為の課題は、介護者の視点で問題点として記載されているが、目標はご利用者の視点で『地域で暮らす』視点も盛り込まれている。ご利用者・ご家族の立場に立ち、ご意見や気づきを盛り込み分かりやすい言葉で書かれている。定例カンファレンスで職員からの活発な意見や、ご利用者のかかりつけ医や、協力医療機関の医師からも助言を頂き計画に反映させている。	○	個別のケア計画として作成されているが、ご利用者お一人ひとりに必要なケアを更に細かく記載し、個別の手順書を作成し全職員のケアの方法・留意点を統一していきたいと考えられている。介護計画の課題欄にはご利用者の“望む暮らし”という視点で記載し、個別的な『ご利用者自身の計画』となると考えられる。今後の更なる取り組みに期待していきたい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ご利用者・ご家族のご要望・状態に変化が生じた場合や、新たな気づき等が出された場合は、設定した時期の前でも臨機応変に介護計画の見直しを行っている。特に状態等の変化が見られないご利用者についても、週1回の定例カンファレンスで変化の兆しについてや、新たな気づき・ケアの変更の必要性についての意見を確認している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご利用者について4名の看護職員にいつでも相談でき、医師への情報提供等で重症化の時も医療処置を受けながらホームでの生活を継続したり、早期退院につなげる等の連携体制は取れている。美容院・お墓参りの送迎や外泊支援、ご家族の急用でご利用者の配偶者の宿泊に対応している。独居の方の安否確認を行ったり、地域の方からご相談があれば入浴や配食に対応していく予定である。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にご希望の医療機関をお聞きし以前からのかかりつけ医や協力医療機関で受診して頂き、必要時はご家族に同行して頂いているが、基本的に職員が通院補助し状態変化時の受診補助は、出来るだけ責任者が行い情報提供を行って、医師との信頼関係も築けている。受診結果は変化がない場合もメール等で速やかに報告し、ご家族だけで通院補助された場合も、結果をお聞きし把握出来ている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に“看取りの指針”をお渡しして説明しご利用者・ご家族のご意向を把握し、ホームで対応出来る範囲について医師や職員と話し合っている。ご利用者の状態変化やご家族の状況が変わった時は、その都度の状態変化について話し合いご意向を確認しているが、ご家族間の思いの違いもあり、終末期に向けた方針・個々のご希望に応じたケアについて検討中である。	○	キーパーソンだけでなく、ご家族お一人ひとりの思いも含めた上での話し合いを繰り返しながらご意向を確認し、同意書等も検討していきたいと考えている。今後の取り組みに期待していきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	お名前呼び方についてご利用者のご希望をお聞きし「○○さん」と、お名前でお呼びしている方もいらっしゃる。方言を使う事もあるが目上の方に対する尊敬の気持ちを忘れず接し、どのような時でも「ダメ」という言葉は使わないよう常に心掛け、排泄時誘導時も「ちょっといいですか」と声をかけ、ご利用者様の自尊心・羞恥心に配慮している。個人情報に触れる話を外部でしない事は勿論、第三者の耳に入らないようにし、メモ類を捨てる時も手で破ったりシュレッダーにかけ漏洩防止を徹底している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活のリズムが取れるような声かけ・誘導や、定期的なホーム行事としての外出等への声かけも無理強いせず、ご本人のご希望やその日の体調・気分に合わせている。外出等もご利用者のご希望を優先しているが、対応が困難な時は今の状況を説明し「後〇〇分くらい待って頂けますか」と、ご本人に伝わるよう具体的にお話して納得して頂いている。下肢筋力低下で外出の機会が減っている方も日光浴をして頂いたり、ご希望を表明されない時に「車椅子で出かけましょうか」とお誘いし、表情・反応を見ながら対応している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者がテレビを見ていて食べたいと言われた、餅入りお好み焼き、タイカレーを献立に採り入れたり、食材の買出しや調理の下ごしらえ、配膳・下膳、食器洗い等でお力を發揮して頂いている。収穫した菜園のトマト・キュウリ・ナス・芋のつる等、旬の食材やチャンポン等の郷土食を作ったり、外食、ピザの出前を取ったり、職員も一緒に食卓について必要な介助を行いながら楽しい雰囲気を作り、食事制限がある時も器や盛り付けを工夫し美味しく食べられるような支援をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	夕食後に入られる方もおられ日曜以外は20時迄、ご利用者の好みに合わせて体調を見ながら入っている時間・湯温、足浴等に対応している。危険がない部分には職員も浴室の外に出たり、一人ずつの入浴、職員も裸でご利用者を抱えて入っていた事もあり、今後必要に応じて対応していく。脱衣を嫌がる方に「下だけ洗いませんか・今日で4日ですが、どうされますか」と声をかけたり、スーパー銭湯・公衆浴場の利用、菖蒲湯・ゆず湯等を採り入れている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	玄関脇の縁台でお小遣いを計算してお寿司を買いに行き、自室で食べてゴミも自分で片付けられたり、お一人で外出されるご利用者や来訪者を教えて頂いている。毎日一緒に食材の買出しに行かれ荷物を持ってくださったり、ご自分で掃除が難しい方の居室や階段・食堂の掃除・ゴミ拾い、洗濯物を干す時にシワがよらないように叩いたり、洗濯物たたみや繕い物、化粧が好きな方、気が合う方とのお話等、ご利用者お一人ひとりに役割・楽しみ事を持って頂いている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	以前から行きつけの美容室や近くの床屋さんに行かれたり、教会・お墓参りを継続して頂いている。ご希望をお聞きしながら系列サービスの送迎と一緒にいたり、散歩や玄関前のベンチで日光浴したり、野菜の収穫等、戸外で過ごす機会を積極的に作っている。責任者は市役所に行く際に、ご利用者を“市役所見学ツアー”にお連れして、市長室前で記念撮影をしたこともある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	20時30分～8時までの防犯上の施錠以外はおこなっておらず、ご利用者が外に出られる時にその都度教えて頂いている。ご利用者毎の落ち着かなくなれる時間帯・傾向を把握しており、台所から玄関が見わたせるので、お一人で出かけられた時は調理専門職員から知らせがあり、職員が後ろから見守りながらそとついで行き、ご近所の方にも連絡して頂けるようお願いをし、鍵をかけないケアを実践している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけしている	一部職員・ご利用者・地域住民が参加し、火災を想定した避難訓練をおこなっている。訓練の様子をビデオ撮影し運営推進会議で訓練の現状を見て頂いたり、職員は課題・改善点の発見に役立てている。消防官・消防団・青年会・交番等で結成された“近隣協力隊”の方に、緊急・災害時の協力や夜間の避難誘導を依頼しており、定期的な訪問や非難誘導経路の指導を頂いている。歩いて直ぐの所にホームの社宅・職員休憩室があり、飲料水・着替え・布団・毛布等の物品の準備はある。	○	日中の訓練だけでなく夜間の災害発生を想定した訓練を行う予定である。緊急通報システムを導入し、近隣協力隊メンバーの一部の方に自動通報されるようになっていく。緊急通報システムを使った訓練や、ご家族や近隣協力隊の方々に参加して頂くことで、より実践的な訓練となり冷静沈着な行動につながっていくと考えられる。職員休憩室に飲料水等の準備はあるが、特に災害備蓄としての考えではなく、今後、災害に備えて何をどれくらい準備するのか検討される等、更なる取り組みに期待していきたい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者の好みに合わせて食材・調理方法を変えたり、丼物以外は主食を残される方に「特別コースメニューです」と、汁物から順に一品ずつ配膳している。飲水制限がない方は1,400cc/日を目標とし“ポーレ喫茶メニュー”を、お出しして飲み物を選んで頂いたり、買い物に行った時におやつを選んで頂いている。調理専門職員が栄養士であり摂取カロリーを定期的に計算し、年齢・性別・体格で盛り付け量を変え、定期的な体重測定・血液検査結果に基づき医師の助言を頂いている。	○	ご利用者に食べて頂く工夫を続けながら、お一人ひとりに合った個別の食の支援を行いたいと考えられている。今後、BMIを基に必要な熱量を算出し頂けるような今後の取り組みに期待していきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者がリラックスできるように共用空間・廊下の一角にソファが置かれ、玄関先に椅子・縁台が備えられ、ご近所の方も散歩の折に休憩されたりご利用者とお話する空間ができています。畳の部屋や雪見障子のある居室もあり、臥床している時間が多い方も一緒に過ごすことを味わってられる。檜風呂のある浴室は昔からの家庭の雰囲気がそのまま残っており、食事の支度をする包丁の音、炊きあがった御飯の香りが自然に馴染み、今迄の生活が違和感なく続けられている。食事時間はテレビを消し、定期的に窓を開けて換気を行い空気が澁まないよう配慮されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人・ご家族が相談され使い慣れた和ダンス・手作りベッド・茶ダンスや、歴史を感じさせるかのような湯呑の跡がくっきりとついている卓袱台、ご先祖様のご仏壇を持って来られて毎日お参りをされる方もいらっしゃる。ご利用者・ご家族と相談しながら家具を配置し、全居室に加湿器を備えホームの藤テーブル・椅子を置いて、居心地よく過ごして頂けるよう工夫している。寝たきりになられた時に外の世界を味わえるように天井に、ぽっかり浮かんだ雲と青い空の絵が描かれ、必要な時にお部屋を替わって頂くことをご了解頂いている。		